

静岡県漁業協同組合連合会

1015 静岡市追手町 9-18

14.10.18 ☎ 054-254-6011

編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成14年度テングサ共販入札会終了 数量、取扱高ともに伸びる

本会では、去る10月9日賀茂出張所においてテングサ事業の本年度最後の第6回入札会を開催し、入札結果は次のとおりです。

数量：20,229kg(814本) 取扱金額：16,440千円 平均単価8,126円(10kg当たり)

最高入札価格：須崎、まくさ(粗)14,890円(10kg当たり)

この結果、第6回までの取扱累計は数量96,486kg、3,875本(対前年比19,992kg、801本増)取扱金額85,698千円(同14,751千円増)、平均単価8,881円(同393円安)となりました。

本年度は、平均単価では経済情勢を反映して前年度を5%程下回る安い結果でしたが、数量、取扱金額は約20%程増加した結果となりました。

2. プレジャーボート賠償保険義務加入を

漁港・港湾を利用するプレジャーボート(以下P B)が増加し、P B事故も急増しているにもかかわらず、P Bの漁港・港湾の利用や航行に関するルールづくりが遅れており、陸上交通における自賠責保険のような制度がないため、漁業者が安心して操業できる状況ありません。

9月14日には、北海道サロマ湖内においてに帰港中のP Bが横波を受け転覆し多くの人が死亡するという痛ましい事故が発生しましたが、本船は保険に加入していないため救助活動に従事した費用が膨大な金額となるにもかかわらず、救助活動費は全く支払われない可能性が高いといわれています。

こうした事故を踏まえ漁業関係者は、漁港・港湾の管理者である都道府県、市町村に対しP B利用者の組織づくりの推進、漁業者との意見交換の場の設置、賠償責任保険加入を義務付けることを目的として運動を展開することになり、去る10月7日全国一斉に関係当局への陳情を行いました。本県においても、全国運動に呼応して本会原会長、県漁船保険組合井上専務が、栗原農業水産部長、山口土木部長、鈴木県漁港協会会長に対し保険加入義務付けやP B利用者の組織づくりの推進を陳情しました。

3. トラフグ漁始まる

遠州灘の名物となったトラフグ漁が、去る10月1日解禁されましたが台風の影響により2日遅れの3日より始まりました。

中心となる浜名漁協では、1日平均2~3トン、隣の福田町漁協では、0.3~0.5トン、地頭方漁協では、0.2~0.3トンの漁獲量で魚体は漁期が始まったばかりということもあり700gを若干上回る小型魚が多いこと、及び最近の経済事情を反映して昨年の魚価と比較するとK

g当たり約500円程安い2500~3000円(平均)となっています。

フグ漁は、来年2月末まで行われますが、魚価は寒くなり忘年会や新年会などで鍋物の需要が伸びる年末から1月にかけて最も高くなるため、今後の魚体の成長や漁獲動向に期待をしています。

4. 農水省、都市と漁村交流でアンケート調査まとまる

農水省統計情報部では「都市と漁村の交流に関する意識・意向」に関する調査結果を発表しました。

これは、平成14年度の農林水産情報交流ネットワーク事業において全国に配置している消費情報提供者(消費者)1,480人、漁業者モニター1,069人を対象に本年6月から7月にかけてアンケートを実施したもので、有効回答は2,374人(内漁業者944人)で回答率は93.1%でした。

まず、消費者の漁村に対するイメージでは漁村の良いところを消費者に聞いたところ、「新鮮な魚介類を食べることができる」が91.3%と最も高く、次いで「自然環境が豊かで、景観に恵まれている」81.4%、「海洋レクリエーション(海水浴、釣り、マリンスポーツなど)ができる」が56.3%、「人間関係が温かく、人情が厚い」が50.7%の順となっています。

一方、消費者からみた漁村の悪いところは「高齢化が進んでおり、若者が少なく活気がない」が63%と最も高く「公共交通が少なく不便」が53.2%、「道路、下水道(トイレの水洗を含む)等の生活環境整備が遅れている」が44.6%、「地域が保守的でなかなか入り込みにくい」34.4%の順で続いています。

消費者が漁村を訪れる場合に重視する情報として、「宿泊施設等の整備、利用料金の情報」が72.7%と最も高く、次いで「漁村の特産品や朝市・産直の情報」が71%、「漁村への交通手段、所要時間等に関する情報」が61.9%の順になっています。

都市と漁村の交流内容について、消費者が漁村を訪れて行きたいことは「郷土食や地域の食材を用いて味わうこと」が81.1%、「特産品や新鮮な魚介類の購入」が77.7%「野外観察や浜辺散策」が58.5%の順でした。

漁村の施設整備に対する消費者の要望を聞いたところ、「快適・安価な宿泊施設」が79.2%と最も高く、次いで「海浜にある公園・緑地、キャンプ場」が67.2%、「海水浴・潮干狩り等のためのビーチ」が59.5%、「漁村周辺の案内図」が49.6%の順となり、いずれの年齢階層でも「快適・安価な宿泊施設」が7割以上と高く、20~29歳は「マリナーなどの海洋性スポーツ施設」が4割と他の年齢階層に比べ高い結果となっています。

5. 諸会議・日程(10月22日(火)~11月3日(月))

- 既報分省略 -

10月23日(水) 県漁連 = 漁協合併問題検討会 (県水産会館)

10月28日(月)~29日(火) 県漁連 = 監査会 (本部、出先)

10月28日(月) 県信漁連 = 第5回理事会 (県水産会館)